

領域4 インフォーマルミーティング 議事録

=====

◆日時：9/14(月) 18:00 ～ 19:00

◆場所：A112

◆報告事項：

・プログラム小委員会・領域委員会報告

2026 年 6 月 10 日(水)13:00-17:15 (Zoom)

1. 物性領域プログラム小委員会 13:00-15:15 (出席者: 松岡先生、佐藤)

物性領域 第 81 回年次大会 (2026 年) 招待・企画・チュートリアル講演、受賞記念講演、シンポジウム講演の検討・決定。領域 4 からの提案は全て採択。

2. 領域委員会 15:30-17:15 (出席者 佐藤)

第 21 回若手奨励賞選定の今後のスケジュールおよび受賞人数の上限について確認

第 81 回年次大会 (2026 年) 領域横断・物理と社会・計算物理の企画提案の審議

第 81 回年次大会 (2026 年) 素核宇ビ・物性領域 企画提案の採択

領域再編について(後述)

オンライン大会に関するアンケート結果に関する報告

・領域 4：若手奨励賞について

2026 年 6 月 15 日、メーリングリストにてアナウンス。当初の締め切りは 7 月 18 日、のち延長して 8 月 5 日。応募者総数 5 件、うち 2 名を選出。今回は理論のみの応募であったため、実験の方の応募を増やすようにしたい。

・領域 4：学生優秀発表賞について

2026 年 6 月 15 日、メーリングリストにてアナウンス。最終的に審査対象となったのは 12 名。

・ AAPS-JPS Award について

本賞の選考は日本物理学会 AAPS 委員会において行われるという受賞規程に従い、本年の C. N. Yang 賞候補者のうち本会会員である方を候補として選考を行った。

第 4 回（2026 年）AAPS-JPS Award の受賞者に野入亮人先生が選出され、記念講演が開催された。

◆審議事項：

・ 春季大会（2026.3.23-26）の予定、キーワード

領域再編が控えているので強い必要性がなければキーワードはそのまま。

・ 春季大会の招待・企画・チュートリアル・シンポジウム

積極的なご提案をよろしくお願いいたします。

・ 来年度 領域代表、副代表

来年度の領域代表を東京科学大の笹川崇男先生、副代表を九州大学の野村健太郎先生にお願いして、内諾済み。

・ 新運営委員の紹介、次期運営委員

次期運営委員に関しては別途メールにて連絡。

・ 運営委員の担当の更新

◆ 運営委員の連絡責任者 若村先生

◆ メーリングリスト・Dropbox 工藤先生

◆ インフォーマルミーティング・領域 HP 川畑先生

・ 領域再編について

【共有事項】

先日の臨時領域委員会において、物性分野における領域制の再編骨子案が示された。領域再編の準備として、プログラム・ユニットというものが提示され、9 月中にその修正作業が求められている。

[具体的な手順]：現領域に対応するプログラム・ユニット名と主要キーワードを確認する。プログラム編成の実態に則して、関連する分野のプログラム・ユ

ニットを修正（追加・削除）する。主要キーワードが書いてなければ記入し、書いてあれば確認および修正する。

提示されたプログラム・ユニットは 37 項目であり、領域 4 に紐づけられたプログラム・ユニットと主要キーワードは次の通り。

（以下、プログラム・ユニット：関連領域：主要キーワードの順）

量子ホール効果：領域 4：（キーワードなし）

半導体：領域 4：（キーワードなし）

量子ドット：領域 4：（キーワードなし）

二次元・層状物質：領域 4,7,8：グラフェン、ディラック電子系、層状物質

トポロジカル：領域 1,3,4,5,7,8,9：（キーワードなし）

非エルミート系：領域 1,4,5,11：非エルミート系

【議論内容】

量子ホール効果・半導体・量子ドットの 3 つのプログラム・ユニットに関しては、他領域との統合も無いため、分野規模の大きさを確保する観点から統合することが望ましい。従って、これらを内包するプログラム・ユニット名を設定し、キーワードに量子ホール効果などの個別のトピックを設定することで方針一致。

このプログラム・ユニット名の議論について。半導体は、今期の大会では半導体スピントロニクスというセッションになったが、プログラム・ユニットにおいては領域 3 から派生する「スピントロニクス」ユニットがあるため、どういう内容として存続するかが不明である。一方で、量子ナノデバイス（例えば超伝導ジョセフソン素子）などを拾えるようなトピック名が望ましい。

以上のことを踏まえて、仮案として「量子デバイス」というプログラム・ユニットが提案された。各プログラム・ユニットのキーワードは、今大会のセッションのプログラムを組んだ領域委員が提案する。なお、「理論」「実験」に該当するキーワードは今回のキーワードにはおそらく組み込まれない。

=====